

第1回 赤ちゃん先生プロジェクト！



手のサイズを比べてみましょう！



身体の大きさは…？



抱っこしているうちに寝ちゃいました！

7月14日（金）に「ママの働き方応援隊」の赤ちゃん先生プロジェクトを行いました。

赤ちゃんが先生となり、ママ講師の方から赤ちゃんの1日の生活を教えていただいたり、自分の手足と比較したりして、成長について考えることができました。本校8回生の卒業生の方もママ講師さんでいらっしゃいました。お母さんになって母校に戻ってこられて、とても懐かしがっておられました。

赤ちゃん先生プロジェクトは年間3回行います。次は12月です。また大きくなった赤ちゃん先生に会えるのを楽しみにしています！

生徒の感想

- 抱っこさせてもらって赤ちゃんが泣いてしまって、戸惑いました。ママ講師さんに赤ちゃんが泣く理由はいくつかあることを教わり、みんなでなぜ今は泣いているのだろうと一緒に考え、とても勉強になりました。また、私たちが抱っこすると泣いた赤ちゃんもお母さんが抱っこした瞬間に泣きやんだので、きちんと区別がついてわかっているのだ、と思いました。
- まず思ったのは、「お母さんって大変だなあ」ということです。私は少しの時間抱っこしてただけで、結構疲れました。しかし、お母さんはずっと抱っこしたり、授乳したり、子どもの安全にも気をつけながら見守らないといけません。小さな大切な命を守っていかないとはいけなかったと思います。
- ママ講師さんのお話で一番驚いたのは、生後6ヶ月頃までは寝ているとき以外はほとんど授乳しているということです。お母さんはまともに寝る時間もなく、子育てをしているということがわかり、自分自身も親に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の実習で、より子どもがほしくなったし、より小学校の先生になりたいと思いました。
- わからないことばかりでしたが、ママ講師さんがとても丁寧に教えてくれて嬉しかったです。初めて抱っこしたときには、とても温かくて、安心するような気持ちになりました。僕もこれから今のように大きくなったのだ、と実感しました。次回も楽しみです。

姫路



乳幼児の生活リズムやあやし方を学んだ高校生
＝姫路市飾西

飾西高に赤ちゃん先生

母親と乳幼児が「授業」

10人、あやし方など学ぶ

乳幼児を持つ母親が、子連れで育児などについて語る「赤ちゃん先生プロジェクト」が14日、姫路飾西高校(姫路市飾西)であった。同校の2年生10人が参加し、乳幼児の生活リズムや抱き方などを学んだ。

NPO法人「ママの働き方応援隊」(神戸市長田区)の姫路支部が実施。同支部は市内の教育機関などで年間約130回授業し、公立高校では初という。

この日は生後8カ月～3歳の子どもを持つ母親5人が講師として参加。新生児と生後半年ほどの幼児の生活リズムを比較し、「新生児は2～3時間ごとに目を覚まし、深夜でも授乳が必要」などと説明した。

続くふれあいの時間では生徒が赤ちゃんの手をひらき合わせたり、抱いたりし

た。泣き出すと「どうしてだろう」と困った生徒も。赤ちゃんをあやした美作健太さん(16)は「自分にもこんな時期があったんだ」と感動していた。

生後8カ月の長男と参加した中西澄江さん(30)は「生徒が優しくだっこしてくれ、うれしかった」と笑顔だった。

(伊田雄馬)